



ファームウェアバージョン:	R1.03.B009	
	DMS-1250-10S	A1
	DMS-1250-10SP	A1
	DMS-1250-12TP	A1
	DMS-1250-10SPL	A1
	ハードウェアバージョン:	
	DMS-1250-12	A1
	DMS-1250-18	A1
	DMS-1250-18P	A1
	DMS-1250-28	A1
	DMS-1250-28P	A1
発行日:		2025/9/24

本リリースノートには、D-Link 製スイッチのファームウェア更新に関する重要な情報が含まれています。ご使用のスイッチに対応するリリースノートであることを確認してください。

- 新しいスイッチにインストールを行う際には、デバイス上のハードウェアバージョンの表示を確認し、ご使用のスイッチがファームウェアのシステム要件を満たしていることを確認してください。ファームウェアとハードウェアの互換性についての詳細情報は、“変更履歴とシステム要件”の項を参照してください。
- 新しくリリースされたファームウェアへのアップグレードを行う場合は、“アップグレード手順”の項を参照しながら正しい手順でファームウェアのアップグレードを行ってください。

スイッチ本体に関する詳細な情報が必要な場合は“ユーザマニュアル”を参照してください。

目次：

変更履歴とシステム要件：	2
アップグレード手順：	2
CLI（シリアルポートまたは Telnet）を使用したアップグレード	2
Web GUI を使用したアップグレード	5
追加機能：	8
MIB の変更点：	8
コマンドラインインタフェースの変更点：	8
修正した問題点：	9
既知の問題：	10

変更履歴とシステム要件：

ファームウェアバージョン	リリース日付	モデル	ハードウェアバージョン
ランタイム：R1.03.B009	2025/9/24	DMS-1250-10S	A1
		DMS-1250-10SP	A1
		DMS-1250-12TP	A1
		DMS-1250-10SPL	A1
		DMS-1250-12	A1
		DMS-1250-18	A1
		DMS-1250-18P	A1
		DMS-1250-28	A1
		DMS-1250-28P	A1

アップグレード手順：

アップグレードは、CLI もしくは Web GUI から実施することができます。

CLI（シリアルポートまたは Telnet）を使用したアップグレード

1. コンソールまたは Telnet を使用してスイッチに接続します。

➤ Telnet 経由の場合

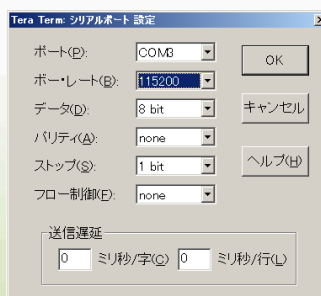
- (1) R-45 ネットワークケーブルを使用して、スイッチの LAN ポートと PC を接続します。
- (2) Telnet に対応したソフトウェア（Tera Term、Putty など）を起動します。
- (3) スwitchの IP アドレス（初期値：10.90.90.90）を指定して Telnet 接続を行います。

➤ コンソール経由の場合

- (1) RJ-45/RS-232C 変換ケーブルを使用して、スイッチのコンソールポートと PC を接続します。
- (2) シリアル通信に対応したターミナルソフトウェア（Tera Term、Putty など）を起動します。
- (3) ターミナルコンソール上でキーボード上のいずれかのキーを押します。

ターミナルソフトウェアの設定は下記の通りです。

- ・ ボーレート：**115200**
- ・ データビット：**8**
- ・ パリティ：**none**
- ・ ストップビット：**1**
- ・ フロー制御：**none**



2. ユーザ名とパスワードの入力を求められますので、アカウント情報を入力し「Enter」を押します。
初期値のアカウントおよびパスワードは「admin」です。

3. ログイン後は下記のコマンドを使用し、ファームウェアのアップデートを行います。

コマンド	説明
copy tftp://LOCATION/SOURCE-URL	TFTP サーバからスイッチにファームウェアをダウンロードします。
show firmware	イメージ ID 及びファームウェアバージョンの情報を表示します。
configure terminal	グローバルコンフィグモードに入ります。
boot image	次回の起動時にイメージファイルとして使用されるファイルを指定します。
end	現在のコンフィグモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
reboot	スイッチをリブートします。
show switch	スイッチのバージョンを表示します。

以下の例を参考にファームウェアのアップデートを行ってください。

例)

- (1) スwitchのユーザ名とパスワードを入力してログインします。

ユーザ名とパスワードの初期値は「admin」です。

- (2) スwitchにファームウェアをダウンロードします。

Switch# **copy tftp://10.90.90.100/DMS1250_A1_FW1_03_B009.hex**

TFTP Firmware Upgrade processing.....Do not power off!!

Firmware upgrade successfully!

※現在のブートイメージとは別のイメージに対し、アップグレードが実行されます。

- (3) ファームウェア情報を確認します。

Switch# **show firmware**

Image ID	Version	Size(B)	Update Time
-----	-----	-----	-----
*1c	V1.00.B014	13148256	01/01/2023 00:37:44
2	V1.03.B009	13826704	01/01/2023 00:04:42

c : Current boot up firmware

* : Boot up firmware

- (4) 更新されたイメージを次回起動時のブートイメージとして指定します。

Switch# **configure terminal**

Switch(config)# **boot image 2**

Switch(config)# **end**

(5) スイッチを再起動します。

Switch# **reboot**

Are you sure you want to proceed with the system reboot (y/n) **y**

注意：

スイッチのアップグレード中及び再起動中に、電源を切らないでください。電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。

(6) バージョンがアップグレードされていることを確認します。

Switch# **show switch**

Device Information

Device Type : DMS-1250-10S Multi-Gigabit Ethernet Smart Managed Switch

System Name : Switch

System Location :

System Contact :

Boot PROM Version : 1.00.001

Firmware Version : V1.03.B009

Hardware Version : A1

MAC Address : 00-12-55-99-00-78

IP Address : 10.90.90.90

Mask : 255.0.0.0

Gateway : 0.0.0.0

System Time : 01/01/2023 00:00:52

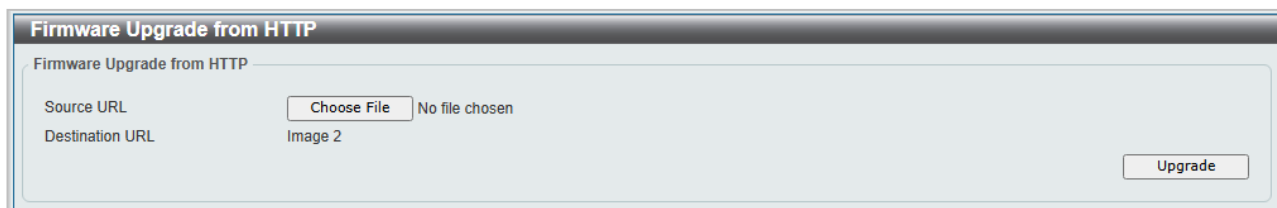
Serial Number : QQABC12345600

Web GUI を使用したアップグレード

1. TFTP サーバ経由でアップグレードを行う場合は、PC 上で TFTP サーバを有効にします。(必ずご使用の PC に TFTP サーバのインストールを行っておいってください。)
2. お客様の PC とスイッチを R-45 ネットワークケーブルで接続します。
PC とスイッチの IP アドレスは同じサブネット内に設定してください。
(例：スイッチの IP アドレスが 10.90.90.90 の場合、PC は 10.90.90.100 など)
3. スwitchの IP アドレス（初期値：10.90.90.90）をブラウザのアドレスバーに入力し、Web GUI にアクセスします。
4. Web GUI にログインします。
「User Name」(管理者のユーザ名)と「Password」(パスワード)の初期値は「admin」です。
5. ファームウェアアップグレードは、**Tools > Firmware Upgrade & Backup** から実行します。
アップグレードの方法は「HTTP」「TFTP」から選択します。

HTTP 経由でアップグレードを行う場合

Tools > Firmware Upgrade & Backup > Firmware Upgrade from HTTP を選択します。



- Source URL : 「Choose File」をクリックし、ファームウェアファイルを選択します

TFTP サーバ経由でアップグレードを行う場合

Tools > Firmware Upgrade & Backup > Firmware Upgrade from TFTP を選択します。



- TFTP Server IP: IPv4 もしくは IPv6 を選択し、TFTP サーバの IP アドレスを入力します。
- Source URL : TFTP サーバ上に保存したファームウェアファイル名を入力します

6. 必要な情報を指定した後、「Upgrade」をクリックします。

※現在のブートイメージとは別のイメージに対し、アップグレードが実行されます。

- 「Firmware Upgrade Information」セクションにステータスが表示されます。

Firmware Upgrade from HTTP

Firmware Upgrade from HTTP

Source URL DMS1250_A1_FW1_03_B009.hex

Destination URL

Firmware Upgrade Information

Receiving firmware, please wait...6% complete.

注意：ファームウェアのダウンロード中およびスイッチの再起動中に、電源を切らないでください。電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。

- ファームウェアアップグレード完了後にメッセージが表示されます。「OK」をクリックしてメッセージ画面を閉じます。

Firmware Upgrade from HTTP

Firmware Upgrade from HTTP

Source URL No file chosen

Destination URL

Warning

! Firmware upgraded success.

- 次のスイッチ再起動時にブートアップを行うイメージを選択するために、**Tools > Firmware Information** の順にクリックします。
- 新しいイメージ ID の「Boot Up」をクリックし、ブートアップファイルとして設定します。

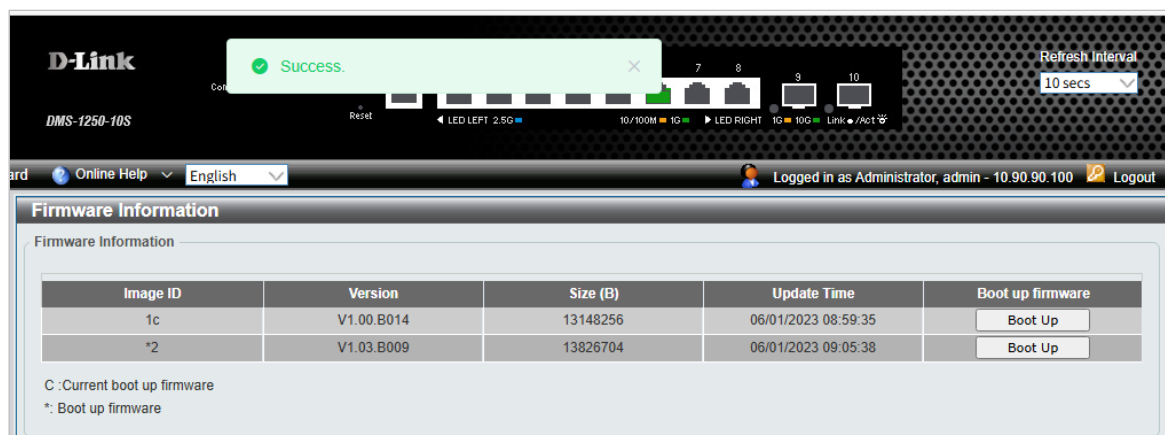
Firmware Information

Firmware Information

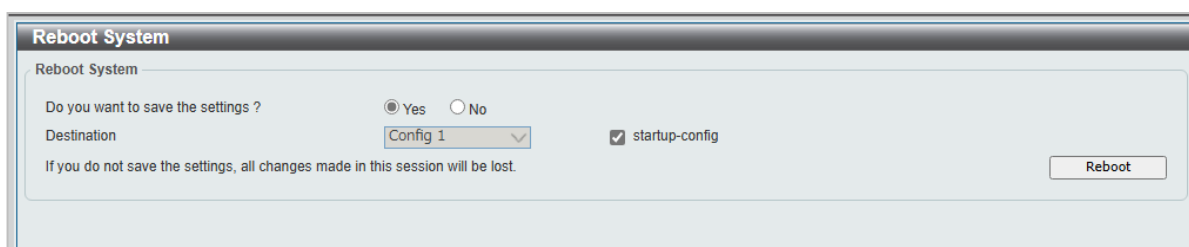
Image ID	Version	Size (B)	Update Time	Boot up firmware
*1c	V1.00.B014	13148256	06/01/2023 08:59:35	<input type="button" value="Boot Up"/>
2	V1.03.B009	13826704	06/01/2023 09:05:38	<input type="button" value="Boot Up"/>

C : Current boot up firmware
*: Boot up firmware

11. ブートファイルの指定に成功すると、画面上部に「Success.」メッセージが表示されます。



12. **Tools > Reboot System** をクリックし、「Reboot System」画面を表示します。
13. 以下の画面で「Yes」を選択し「Reboot」をクリックします。スイッチが再起動されます。



注意：スイッチの再起動中に、電源を切らないでください。再起動中に電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。

14. システムの再起動後にログインし、デバイス情報画面でファームウェアのバージョンがアップグレードされていることを確認します。

追加機能：

ファームウェアバージョン	変更点
R1.03.B009	<ol style="list-style-type: none"> 1. DMS-1250-10SPL/12/18/18P/28/28P をサポート致しました。 2. SSH サーバアルゴリズム設定をサポート致しました。 3. SSL 自己署名証明書の生成とトラストポイント設定をサポート致しました。 4. OpenSSL をアップグレード致しました。 5. VLAN トンネル (Q-in-Q) 機能をサポート致しました。 6. DHCP リレー/DHCPv6 リレー機能をサポート致しました。(オプション 82 対応) 7. ZTP 機能および DHCP 自動イメージ機能をサポート致しました。 8. non-WAC Radius CoA/DM をサポート致しました。(CLI) 9. マルチキャスト VLAN 機能をサポート致しました。

MIB の変更点：

ファームウェアバージョン	MIB ファイル	変更点
R1.03.B009	DMS-1250-SERIES-V1.03.005.mib	<p>以下の機能をサポート致しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SSH サーバアルゴリズム設定 ・ SSL 自己署名証明書の生成/トラストポイント設定 ・ VLAN トンネル (Q-in-Q) ・ DHCP リレー/DHCPv6 リレー ・ ZTP および DHCP 自動イメージ機能 ・ マルチキャスト VLAN

コマンドラインインタフェースの変更点：

ファームウェアバージョン	変更点
R1.03.B009	<ol style="list-style-type: none"> 1. SSH サーバアルゴリズム設定のコマンドを追加致しました。 2. SSL 自己署名証明書の生成/トラストポイント設定のコマンドを追加致しました。 3. VLAN トンネル (Q-in-Q) 設定のコマンドを追加致しました。 4. DHCP リレー/DHCPv6 リレー設定のコマンドを追加致しました。 5. DHCP 自動イメージ設定のコマンドを追加致しました。 6. non-WAC Radius CoA/DM 設定のコマンドを追加致しました。 7. マルチキャスト VLAN 設定のコマンドを追加致しました。

修正した問題点：

ファームウェアバージョン	修正した問題点
R1.03.B009	<ol style="list-style-type: none"> SSH セッションタイムアウト後に SSH セッションが削除されない問題を修正致しました。 既定の SNMP Community("public", "private")を無効に設定することができない問題を修正致しました。 PD アライブが IPv6 アドレスに対し動作しない問題を修正致しました。 コンソールがフリーズする場合がある問題を修正致しました。 Port-channel において、不適切なエラーメッセージを伴い設定に失敗する問題を修正致しました。 SSH サーバの IPv6 の機能について、Telnet サーバに適用される IPv6 ACL の影響を受ける問題を修正致しました。 HTTPS 接続による WebUI 経由でバックアップしたファームウェアイメージが不正となる問題を修正致しました。 トランクポートにおいて、Native VLAN の変更が適切に反映されない問題を修正致しました。 CLI で Asymmetric Vlan を設定する際、エラーにより有効化できない場合であってもエラーメッセージが表示されない問題を修正致しました。 IPv6 アドレスを使用している場合、トラップ送信元インタフェースの設定が適切に動作しない問題を修正致しました。 LACP のパートナー情報が適切に表示されない問題を修正致しました。 SNMP 経由で TACACS サーバの設定を行うと、TACACS+サーバグループが作成されてしまう問題を修正致しました。 CLI において、ログイン方式リストの認証設定を削除できない ("aaa authentication login default"で none 指定が適用されない) 問題を修正致しました。 WebGUI がスタックしログイン不可となることがある問題を修正致しました。 ポートの PVID の変更後に MAC アドレステーブル内の手動で登録された MAC アドレスが削除される問題を修正致しました。 LLDP 転送の有効化時、LLDP パケットが適切に転送されない問題を修正致しました。 SNMPv3 機能において、非サポートの AES プロトコルを指定して SNMP クライアントから問い合わせを行った場合、スイッチでクラッシュが発生する問題を修正致しました。 手動で音声 VLAN を設定した場合、デバイスを識別できない問題を修正致しました。 LLDP における 802.3 Extension TLV の MAC/PHY 情報について、設定が正しく反映されない問題を修正致しました。 Power Saving 機能に割り当てている既存のタイムレンジ設定を変更した際、削除済みの日時であっても省電力機能が実行される問題を修正致しました。 システムログの送信元インタフェースに指定した VLAN が存在しない場合に WebUI から「Source Interface State」を無効にできない問題を修正致しました。 WebUI において、DSCP CoS Mapping の DSCP List の表示が範囲表記ではなくカンマ区切りとなっていた問題を修正致しました。 "configure terminal"から始まるコンフィグをコピー & ペーストした場合に SSH セッションと WebUI がハングアップする問題を修正致しました。 VLAN インタフェースの「Allowed VLAN Range」に指定される文字数が 542 を超える場合、542 文字を超える設定が消失する問題を修正致しました。

	<p>25. WebUI の項目名や配置に関する修正を行いました。</p> <p>26. 'snmp-server enable traps transceiver-monitoring' コマンドが Interface Configuration モードで実行できてしまう問題を修正致しました。</p> <p>27. スイッチのシステム名を変更後、RADIUS サーバで正しい NAS-ID が受信されない問題を修正致しました。</p> <p>28. "dot1x initialize mac-address" コマンドによる 802.1X セッションのクリアが適切に行われない場合がある問題を修正致しました。</p>
--	---

既知の問題：

ファームウェアバージョン	既知の問題
R1.03.B009	<ol style="list-style-type: none"> 2.5Gbps の速度でリンクアップしているポートについて、SNMP における ifSpeed の取得値が 1,000,000,000 になる問題。 2.5Gbps の速度でリンクアップしている Port-channel について、SNMP における ifHighSpeed の取得値が 0 になる問題。 SNTP の設定における Domain 指定による SNTP Server の指定に際し、正式な FQDN 形式（末尾にドット有）を扱うことができない問題。 証明書認証（Public Key）による SSH に関するセッション情報を表示できない問題。 ポートセキュリティのシャットダウンモード設定時、検知およびポートシャットダウンまでに遅延があるため、不正ホストからの一部パケットが転送される問題。 DHCP リレーで DHCP ユニキャストリレーが無効の場合、DHCP クライアントのパケットがサーバに送信されない問題。 不明または存在しないホストに対して IPv6 Ping を実行した場合、Timeout ではなく Unreachable メッセージが表示される問題。 SNMP による設定時のエラーメッセージにエラー原因の説明が含まれない場合がある問題。

Copyright 2025 D-Link Japan K.K.